

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

「うみのこ」を世界に発信

【所長 安江利光】

11月7日～11月9日にかけて、ハンガリー・ブラトンフェレド市にて、第19回世界湖沼会議が開催されました。世界湖沼会議は、滋賀県が発祥の2年に1度開催される国際会議で、1984年に滋賀県で開催された「世界の湖沼環境の保全と管理に関する滋賀会議（LECS'84）」が始まりです。湖沼とその流域の持続可能な管理について、学会、政府、市民、NGO、企業など他分野の参加者が意見や経験を交換する場であり、世界の湖沼流域管理における科学的アプローチの促進に貢献するというLECS'84の目的を引き継いでいます。今回の会議には世界の10を超える国と地域から200人以上の方々に参加していました。フローティングスクールは、ニカラグアとの交流の紹介を依頼され、フローティングスクール事業の紹介とともに、ニカラグアとのつながりについて発表を行いました。ニカラグアにはマナグア湖という湖があり、近年、環境の悪化が問題視されるとともに教育の大切さが重視されているところです。ニカラグアとは2021年からJICAとおして交流をし、2回に渡りフローティングスクールで行っている学習をウェブ会議でニカラグアの小学校教員やマナグア市役所職員、教育省の方々に伝えました。そうしたところ、ニカラグアではすでに「UMINOKO」という教育プログラムを開発されているそうです。

世界湖沼会議では、滋賀県が誇るフローティングスクール事業を紹介し、その後、ビデオレターでニカラグアの市長がマナグア湖でのフローティングスクールを参考にした「UMINOKO」プログラムを紹介しました。分科会での発表でしたので、30人くらいが参加する小さな会場だったのですが、参加した多くの方に興味を持って聞いていただけたと感じました。こちらから持って行ったフローティングスクールを紹介するパンフレットも、日本語表記でしたが、発表の後ほとんどなくなっていましたので、関心の高さがうかがえました。今回の世界湖沼会議をきっかけとして、世界の子もたちと滋賀県の子もたちが一緒に「うみのこ」に乗船し、言葉は通じないながらも同じ時を過ごし、同じ学習をする中で子どもたちがグローバルな感覚を養っていく、そんな未来が見えた気がしました。

